

地磁気世界資料解析センター News

1. 新着地磁気データ

前回ニュース（2021年1月31日発行、No.185）以降入手、または、当センターで入力したデータのうち、オンラインデータ以外の主なものは以下のとおりです。

オンライン利用データの詳細は（<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/catmap/index-j.html>）を、観測所名の省略記号等については、観測所カタログ（<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/catmap/obs-j.html>）をご参照ください。

また、先週の新着オンライン利用可データは、（<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/wdc/onnew/onnew-j.html>）で御覧になれば、ほぼ2ヶ月前までさかのぼることもできます。

Newly Arrived Data

- (1) Annual Reports and etc.(off-Line) : LRV (2019)

2. ASY/SYM 指数

2021年1-6月のASY/SYM指数を算出し、ホームページに載せました。

<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/aeasy/index-j.html>

3. 家森俊彦名誉教授 IAGA Honorary member 選出

家森俊彦名誉教授（元センター長）が、2019年7月にモントリオールで開催された第27回IUGG総会期間中に開催されたIAGAの代表者会議（Conference of Delegates）において、IAGA内規（By Law 4）に基づきHonorary Memberに選出されました（<http://www.iaga-aiga.org/index.php?id=iaga-honorary-members>）。IAGAの活動に対する、これまでの家森先生の顕著な功績をたたえての選出は、地磁気センターにとって大変名誉なことであり、家森先生にお祝いを申し上げます。

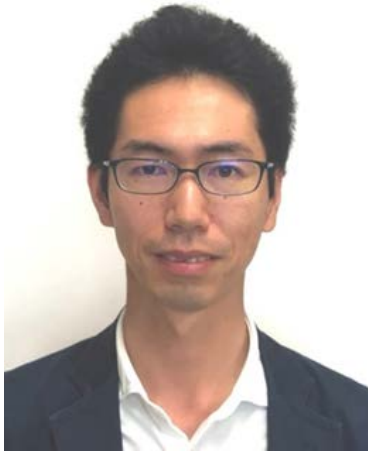
日本からIAGA Honorary Memberへは、永田武先生、福島直先生、河野長先生に続く選出となります。



<写真：2019年7月モントリオールのレストランにて 家森俊彦先生>

4. 就任のご挨拶

4月1日付で地磁気センター助教に着任しました今城峻です。地上磁場データや衛星観測データを用いた地球磁気圏-電離圏結合系の研究を専門分野としています。在学中から学位取得後1年は九州大学でグローバルな地上磁場観測網「MAGDAS」の野外作業やデータ処理に携わりながら、そのデータを用いて夜側高緯度起源の磁気波動の昼間側低緯度への伝播過程の研究を行っていました。その後、現在の所属である京大地磁気センターに日本学術振興会特別研究員PDとして赴任し、3年任期の後半は名古屋大学宇宙地球環境研究所で研究を行いました。現職の前は地球環境研究所のERGサイエンスセンターでERG衛星の磁場データと高エネルギー粒子データの処理を担当し、ERG衛星観測データを用いた内部磁気圏電流系や高高度のオーロラ加速域の研究



を推進しました。

地磁気センターは地球や惑星の電磁気現象の先端的研究を行う研究機関である一方、地上の磁場データと、それから作られる地磁気指数などのデータプロダクトを提供などといったデータサービスを行う機関としても大きな役割を持っています。特にAE、Dst、SYM/ASYといった全球の地磁気現象活動度指数は長年に渡り多くの研究者に利用されてきた、地磁気センターが世界に誇るデータプロダクトだと思います。また、最近では人工衛星を使った観測が先端的研究の中心になりつつありますが、電離圏電流を見る上では地上磁場は依然必要不可欠です。地上磁場の観測・研究を専門とし、データベースの作成の経験のある者として、指数算出・公開を継続しつつ、データサービスの質をさらに向上していくことが私の使命だと自認しています。着任後は集中的に現在のデータ処理、公開のシステムの把握に努めています。システムの多くはかなり昔に書かれたプログラム群で回っているのですが、調べれば調べるほどよく

できていることがわかり、現在にいたるまで動き続けているという事実から、このシステムを作り上げた歴代の地磁気センターの先生がたの偉大さが身にしみています。一方で、web ページや、データ公開の方法、データのバージョン管理など現代的なやり方とはかけ離れてきているところもあり、これまでの経験を生かして発展させていきたいと考えています。しかしながら、その前により基幹的な部分(ハードやLinux ディストリビューション)の刷新が急務で、作業に追われる日々ですが、普段自分が使っている公開データはこういった地味な作業の上でなりつていることを強く実感しています (とはいえこれも結構楽しいので苦にはしていません)。今年度から地球電磁気・地球惑星圏学会「データ問題検討分科会」の世話人にも加わり、データに関してこれまで以上に深く考えていく所存です。

ここまでデータベース業務の話ばかりになってしまいましたが、研究では直近はオーロラ電子の高高度加速域の特性・発生機構の解明に向けて、ERG 衛星データを中心としたデータ解析を進めています。最近は人工衛星を用いた磁気圏の研究がメインになっていましたが、地磁気センターの保有する長期の多点磁場データを生かした研究も今後取り組んでいきたいです。今後ともよろしくお願いいたします。



<ベトナムにて磁力計設置 (九州大学での学生時代) >



<趣味の釣り>

5. 人事異動

今城 峻 助教：4月1日付けで着任